

# 第40回日本肩関節学会

2013年9月27日(金)・28日(土)

ウエスティン都ホテル京都

会長: 黒川 正夫

社会福祉法人  
財団 大阪府済生会吹田医療福祉センター  
大阪府済生会吹田病院

合同  
開催

## 第10回肩の運動機能研究会

会長: 森原 徹

京都府立医科大学大学院医学研究科  
運動器機能再生外科学

### ご挨拶



本研究会の会長を拝命しました森原 徹と申します。開催するにあたり一言ご挨拶をさせていただきます。

肩関節疾患の治療には、医師、療法士、看護師、現場の指導者やトレーナーによる連携が極めて重要です。

保存療法では、医師は薬物療法、注射療法を中心に行います。しかしこれだけで疾患が治癒することはほとんどありません。肩関節を含めた全身への運動療法が治療のかぎとなります。療法士は疾患の病態に対する理解を基に、運動療法を進めていく必要があります。本では書き表せない実際のポイントがあるかもしれません。

手術療法では、医師の行った手術内容を十分理解したうえで、療法士が術後運動療法を行う必要があります。腱板断裂修復術を例にあげても、本来の術式とは

違った手術内容になることもしばしばです。術後の禁忌肢位はなになのか、どのような日常生活動作は術後許可してよいのか、医師、療法士と看護師との連携が治療を進めていく上で重要です。

一方、スポーツ肩障害では、病院での治療だけでは完結しません。現場に復帰してからのケアが重要になります。指導者やトレーナーは、病院での治療内容を把握し、練習での禁忌事項や注意点を配慮しながら、競技復帰をめざしていく必要があります。

そこで本研究会では、医師、療法士、トレーナー、看護師が疾患に対してどのように連携を持って治療に当たればスムーズに治療が完結できるかをもう一度討論したいと思います。医師に各疾患の保存療法と手術療法について概論していただき、療法士、看護師、トレーナーを交えた議論を打ち出していきたいと思っております。

どれだけ科学的な根拠をもって運動療法が行えるか、正しい知見をふまえてみんなで考えてみましょう。

秋の京都で肩に興味のある肩肩と、ゆっくりと肩りあいたいと存じます。同ホテルでは同日、日本肩関節学会も開催され、御聴講していただくことも可能です。

みなさまと京でお会いできるのを楽しみにしております。

第10回肩の運動機能研究会

会長 森原 徹

京都府立医科大学大学院医学研究科 運動器機能再生外科学